

現代ロシア語の「褒め言葉」「お世辞」に関する意味解釈

井上, 幸義

松村, 瑞子
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/4773111>

出版情報：言語文化論究. 48, pp.59-73, 2022-03-17. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

現代ロシア語の「褒め言葉」「お世辞」に関する意味解釈

井上 幸義¹・松村 瑞子²

1 はじめに

現代ロシア語の комплимент を含む表現の語用論的意味解釈は困難である。露和辞典（『研究社露和辞典』、『岩波ロシア語辞典』、ザルービン・ロジェーツキン編『露和辞典』など）では комплимент の語義は「お世辞」や「おべっか」だけが挙げられているが、ロシア語の комплимент は、誠実さに関して否定的な意味の「世辞」やさらに否定的な「おべっか (лесть)」の他に、誠実さに関して肯定的意味の「賛辞、誉め言葉 (похвала)」の意味でも使われ、実際のコンテキストではどの意味で使われているのか、その語用論的意味の解釈がむずかしい場合がある（日本語の「世辞」は「他人に対する愛想のよい言葉。人に気に入られるような上手な口ぶり。おせじ。「世辞がうまい」（『大辞泉』1488頁）」というように誠実さに関して否定的な意味で使われる場合が多い）。

次の例は、電子掲示板に投稿された комплимент にまつわるある女性の書き込みで、この場合も「褒め言葉 (похвала)」と「お世辞」・「おべっか (лесть)」のどちらの意味で用いられているのかを日本のロシア語学習者が理解するのはむずかしいと予想される。

Форум Likor

Танюшка

Опубликовано: 30 мар 2012

(1)-1 Это не комплимент, а правда...

Почему мужчина, сделав девушке комплимент, и услышав в ответ “Спасибо за комплимент!”, возражает: “Это не комплимент, а правда!” Выходит, девушка благодарить не должна? Если благодаришь за комплимент, то не веришь в действительность этих слов? Полагаю, девушке следует ответить: “Да, это так!” или что-то в этом роде.

Бзз

Опубликовано: 30 мар 2012

(1)-2 Отвечайте : “Приятно слышать!” или что-то вроде.

(下線は本稿筆者による。以下同様)

フォーラム Likor

Танюшка (女性) による投稿

2012年3月30日投稿

(1)-1 「これは комплимент じゃなくて、本当のことだよ」…

「男性は女性に КОМПЛИМЕНТ を言ってから、その女性に「КОМПЛИМЕНТ ありがとう」と返されると、どうして「これは КОМПЛИМЕНТ じゃなくて、本当のことだよ！」などと言い返すのかしら。という事は、女性は感謝しちゃいけないってわけなの？ КОМПЛИМЕНТ に感謝したら、その言葉を本当は信じていないってことになるわけ？女性に対しては「うん、そうなんだよ」とか何かそういう言葉を返してくれればいいんじゃないの」

→ これに対するコメント

Bzz (ハンドルネームからは性別不詳だが、おそらく男性)

2012年3月30日投稿

(1)-2 『『(КОМПЛИМЕНТ が) 聞けてうれしいわ』とかそういう言葉を返したらいかがでしょう』

女性によるこの投稿は、おそらく個人的体験を基に一般化した КОМПЛИМЕНТ にまつわるやり取りで、男性から КОМПЛИМЕНТ を言われ、それに対して女性がお礼の表現として Спасибо за КОМПЛИМЕНТ! と返すと、男性から再び Это не КОМПЛИМЕНТ, а правда! 「これは КОМПЛИМЕНТ じゃなくて、本当のことだよ！」と返されることに対する不満が述べられている。上記の男女のやりとりにおける КОМПЛИМЕНТ は「褒め言葉」と「お世辞」のどちらの意味で用いられているのだろうか（なお、КОМПЛИМЕНТ は、男性から女性に掛けることが多いが、性に関わらず用いられる）。この女性の投稿に対するコメントでは、КОМПЛИМЕНТ という語を使用しない返礼表現の Приятно слышать! 「聞けてうれしい」が提案されている。

褒め言葉は、それが純粋な褒め言葉なのか、お世辞なのか、おべっかなのか、皮肉なのか、その言葉を発する人の意図や表情がいずれであるのか、また、それを受け取る側がどう受け取るかなど非常に微妙な語用論的問題であるが、一般的に、ロシア語では、何かを褒められたり、あるいはお世辞を言われた場合、決まり文句の返礼として Благодарю (Спасибо) за КОМПЛИМЕНТ! 「お褒め言葉（お世辞）ありがとう」という言い方をすることがよくある。この表現は вежливые ответы на КОМПЛИМЕНТ 「КОМПЛИМЕНТ に対する丁寧な返礼」であるとされる（Словарь русского речевого этикета (『ロシア語・言葉エチケット辞典』) が、その КОМПЛИМЕНТ を「褒め言葉」ととるのか「世辞」ととるのかは状況と受け手による。一方、返礼に対し、Это не КОМПЛИМЕНТ, а правда (сухая правда, констатация факта)。「お世辞じゃなくて、本当のことです（本当の本当です、事実を言っているだけです）」などの言葉を返すこともよくあり、その場合は、自分の言葉は「お世辞ではない」という一義的な意味になる。同じ КОМПЛИМЕНТ という語が、誠実さにおいて肯定的な意味の「褒め言葉（похвала）」や否定的な意味の「お世辞」、さらに否定的な意味の「おべっか（лесть）」という意味でも使われる点が、日本のロシア語学習者にとっては理解しづらいと考えられる。

そこで、まず、КОМПЛИМЕНТ が受け手にとって「褒め言葉（похвала）」あるいは「おべっか（лесть）」のいずれかを明示的に意味すると考えられる例をいくつか挙げる。

2 КОМПЛИМЕНТ が受け手にとって「褒め言葉」を明示的に意味する例

(2) Вот вы все время повторяете, что вы – панк. Но ваша манера игры очень сдержанная. В «47 ронинов» вы держитесь как Бастер Китон, несмотря на то что играете жуткого злодея.

– Спасибо за КОМПЛИМЕНТ.

[Василий Корецкий, Асано Таданобу. 7 вопросов Таданобу Асано // «Русский репортер», №.46. (324) 21.11. 2013., С. 14]

「さてあなたはいつもご自分がパンクであると繰り返しおっしゃっていますが、あなたの演技法は非常に抑制されたものです。映画「47Ronin」の中であなたは、極悪人の役でありながら、バスター・キートンのように演じていらっしゃいます」

－「おほめに預かりありがとうございます」

(ヴァシーリー・コレツキー、浅野忠信「浅野忠信への7つの質問」『ロシアのレポーター』（2013年第46号14頁）

雑誌「Русский репортер」（『ロシアのレポーター』2013年第46号）に掲載された映画俳優浅野忠信へのインタビュー記事から。忠臣蔵をモチーフとしたファンタジー・アドベンチャーのアメリカ映画「47Ronin」（カール・リンシュ監督）に吉良上野介役で出演した浅野忠信に対し、インタビュアーは、浅野の抑制された演技を喜劇王バスター・キートンに喩え称えている。浅野忠信は、ロシアのセルゲイ・ボドロフ監督のたつての願いで、映画『モンゴル』（2007）の主演チングス・ハーンを演じ、また、2014年には主演映画『私の男』で第36回モスクワ国際映画祭最優秀男優賞を受賞するなどロシアでもその演技は非常に高く評価されていることから、インタビュアーのこの言葉は「お世辞」というより「褒め言葉」と解釈するのが自然であろう。それに対する浅野忠信の Спасибо за комплимент. も、「褒め言葉」に対する感謝と解釈できるだろう。これに続けて、浅野忠信は、演技法を学校で学んだわけではなく、仕事を通して身に付けざるを得なかったと謙遜しながらも、自らの演技アプローチをスタニスラフスキーシステムとハリウッドシステムの中間的なものとして位置づけ、さらに、伝統的な日本の演技法では、役者はジェスチャーやイントネーションといった手法を絞り切ってから演じるが、自分はその影響を受けていると答えることによって間接的にバスター・キートンの演技法との共通点を肯定し、賛辞に答えている。

3 **КОМПЛИМЕНТ** が受け手にとって「おべっか・お世辞」を明示的に意味する例

(3) – Не повезло американцам! Зато повезло нам! – хитро глянула на Романа.

– Спасибо за комплимент. Не верю, но приятно, – улыбнулся в ответ вожатый.

[Салават Вахитов. Разорванное сердце Адель // «Бельские просторы», 2013]

「アメリカ人たちは損しましたね！その代わりに私たちは得したけれど！」と私はいたずらっぽくロマンを見ながら言った。

「お世辞ありがとう。真に受けはしないけれど、うれしいよ」とリーダーのロマンは微笑んで答えた」（サラヴァト・ヴァヒトフ『アデルの引き裂かれた心』、雑誌「ベリスキエ・プロストーリー」2013）

小説の主人公ジュリヤは、アメリカに憧れ、ソ連からアメリカに移住して成功を夢見る14歳の少女。ピオネール（共産少年団員）のキャンプに参加し、そこでピオネール指導員のロマンと知り合う。ロマンが、アメリカのテキサスのキャンプに参加を希望していたが、ビザが下りなかったためにアメリカ行きは叶わなかったことを知ったジュリヤが放った言葉「アメリカ人たちは損しましたね！その代わりに私たちは得したけれど！」をロマンは **КОМПЛИМЕНТ** 「お世辞」と取り、お世辞でもうれしいと返す。しかし、ジュリア自身は、同じアメリカに憧れる仲間を見つけたという共感から

いたずらっぽさに紛らわせてこの言葉を発しているのです。ジュリアの言葉は単なる「お世辞」というより「共感の喜び」から生じた「賛辞」を意味すると考えられる。

4 **КОМПЛИМЕНТ** が受け手にとって「褒め言葉」を明示的に意味する例

(4) Едем сквозь дивные ландшафты, но жена их так толком и не увидела, потому что взяла с собой новый роман Дины Рубиной и так зачиталась им, что даже на мои тычки: «Смотри вокруг! Дина не убежит!» – ословело оглядывалась, что-то мычала и тут же вновь утыкалась глазами в книгу. Лучшего комплимента для писателя трудно придумать. [Михаил Гиголашвили. Красный озноб Тингитаны: Записки о Марокко (2006) // «Нева», 2008]

「私たちは絶景（モロッコ）の中を進んでいたが、私の妻はその景色をちゃんと見ようとしなかった、というのも彼女はディーナ・ルービナの新作の長編小説を持参し、それに読み耽っていたからで、私が「周りを見てごらんよ。ディーナは逃げないよ！」と水を向けても、妻は朦朧と辺りを見回して、何かむにゃむにゃ言うともた読書に耽るというありさまだった。作家にとってこれほどの賛辞（褒め言葉）を思いつくのはむずかしい」（ミハイル・ギゴラシヴィリ「チンギタナの赤き悪寒：モロッコ紀行（2006）」、『ネヴァ』2008）

この場面はモロッコ旅行に出かけたある夫婦のやり取りで、小説に夢中で絶景さえも目に入らない妻の様子そのものが、小説の作者を称える行為 **КОМПЛИМЕНТ** であるという夫の視点から描かれている。小説の作者ディーナ・ルービナ（1953～）はその場にいるわけではなく、ディーナに対するお世辞は成立しない。つまり、「自己の感情・認識、知識・情報などが「相手」に理解されることを意図した」行為である「理解要請」（川口・蒲谷・坂本「待遇表現としてのほめ」1996, 13-22）という観点から見ると、「お世辞」や「おべっか」は「理解要請」を必ずともなう行為であるのに対し、「称賛」は相手がいなくても成り立つために必ずしも「理解要請」を前提としていないが、この場面での **КОМПЛИМЕНТ** は「理解要請」と結びつかないので、**КОМПЛИМЕНТ** は **ПОХВАЛА** 「称賛、賛辞、褒め言葉」を表していると言える。

5 **КОМПЛИМЕНТ** が受け手にとって「おべっか」を明示的に意味する例

(5) – Когда вы приехали? – спрашивает он. – Из Нью-Йорка?

– Вчера.

– И уже на выставке?

– Мы, собственно, и приехали специально на выставку.

Конечно, это лесть, комплимент. Шагал отмахивается, смеется — на лице его в эту минуту появляется ребячье выражение...

[Андрей Седых. Далекие, близкие. Воспоминания (1979)]

(Андрей・セディフ『遠くて近い人々。回想録』1979)

「あなた方はいつ（パリに）いらっしゃったんですか？ニューヨークからですって？」と彼（シャガール）は尋ねた。

「昨日です」

「それでもう展覧会に？」

「私たちは、実を言うと、この展覧会のためにわざわざやってきたのです」

もちろん、これはおべっか、お世辞である。シャガールは、やめてくれというように手で払いながらも、笑っている。彼の顔にはその瞬間子供のような表情が浮かんだ…

画家シャガールの友人で亡命ジャーナリストのアンドレイ・セディフの回想録からのひとこま。パリのギャラリーで開催されたシャガールの個展で、自らの作品を友人の詩人と一緒にゆっくり見て回るシャガールの姿をテレビのカメラが追ひ、そのあとにシャガールのファンたちが恭しくぞろぞろと続く。ファンたちはもはや作品どころではなく、その関心はシャガール御大そのもので、手を伸ばしてはシャガールのサインをねだっている。シャガールは、自分のサインがパリで高値で売れることを知っているのでもともとサインをするのは好まないが、個展の初日ということもあり、寛大に応じている。この会話の場面は、シャガールと、ニューヨークから来たという旅行者とのやりとり。わざわざシャガールの個展のためにパリにきたという客の言葉を傍らで聞いていたシャガールの友人セディフは、その言葉を Конечно, это лесть, комплимент. 「もちろん、これはおべっか、お世辞にすぎない」とし、シャガールもこの「おべっか」を制しながらも、まんざらでもない様子が描かれている。ここでは、комплимент は лесть 「おべっか」の言い換えとして、つまり、同義語として使われている。

6 похвала, лесть, комплимент の語彙的意味場の関係

ソ連科学アカデミー編纂の Словарь современного русского литературного языка АН СССР, 1956 (『現代標準ロシア語辞典』) では称賛、おべっか、お世辞にかかわる 3 つの語 похвала, лесть, комплимент のそれぞれの語義は次のように規定されている：

Похвала: Лестный отзыв, одобрение 「賛辞、称賛 (褒め言葉)」

Лесть: Лицемерное, угодливое восхваление 「偽善的で媚びへつらうような賛美」

Комплимент : Похвала, вызванная стремлением сказать любезность или польстить кому-либо. 「だれかに厚情を言いたいあるいはおべっかを使いたいという意志によって引き起こされる賛辞」。

これら 3 語の語義規定は、комплимент が、похвала 「賛辞、称賛 (褒め言葉)」 と лесть 「おべっか」 のどちらとも類義関係にあることを示している。

では、комплимент は、похвала および лесть とどのような語彙意味論的關係を成しているのだろうか。Гутарева Н. Ю. はこれらの 3 語の意味場を次のように図式化している (Гутарева Н.Ю. Функции лесты в ходе реализации коммуникации, «Филологические науки. Вопросы теории и практики», №2 (9) 2011. С. 66-68.)



Гутареваによれば「これらの 3 語は、同じ意味場に属するトライアド (三連構造) を成し、伝達者の故意性・意図性は左から右 (похвала 「賛辞」 → лесть 「おべっか」) に行くにしたがって増大し、誠実さ・正直さはその逆 (лесть 「おべっか」 → похвала 「賛辞」) に向かって増大する」。さらに、лесть と комплимент との基本的相違点を、лесть が 「相手の肯定的資質の過度な誇張で、しば

しば実際にはそのような特徴がない場合にもあるかのように発言することである」のに対し、комплиментは「ただ間接的に相手の肯定的資質があることを示すだけ（комплиментは лесть と異なり、事実に基づく）」であり、「лестьは комплимент と異なり、本質的に誠実でない」としながら、実際には、これらの3語の境界は曖昧であるとしている。しかし、換言すれば、комплиментは誠実さにおいて похвала と、故意性・意図性において лесть と意味場が重なり合うことになる。похвала が、立場が上の人が下の相手を褒める（上からの目線）のに対し、лесть を相手を意図的に過度に持ち上げる（過度に下からの目線）とすれば、комплимент はその中間に位置し、このふたつに跨り、対等もしくは下からの目線によって、これらの間を揺れ動く多義性をもつといえるだろう。

похвала と лесть が、ともに古来からのロシア語で、互いに褒めの意味場の両極（肯定的意味と否定的意味）を二項対立的に成していたのに対し、комплимент は17世紀に導入されたフランス語の compliment 「挨拶」からの借用語であり、当初は「外交関係における敬意の表明」を意味するもので、похвала と лесть との意味場は形成していなかった。ここで注目すべきは、当初の意味が外交関係という「対等な関係」において用いられていたことである。「対等な関係」は、похвала と лесть の中間に位置する。その後、комплимент は、フランス語の compliment の18世紀の新たな意味「称賛」の影響で、похвала と類義関係を形成するに至った。つまり、古来のロシア語では、похвала と лесть は互いに両極を成し、その中間の語はなかったが、18世紀以降その隙間を埋めるかのように комплимент が、隣り合う2語と互いに意味場が重なり合う三連構造を構成するようになったということであろう。

18世紀当時のフランス語では compliment は「様々な機会に行われる称賛；口頭または書面で述べる礼儀作法の一形態」（Dictionnaire français moderne en ligne: XVIII^e & XIX^e siècles 『18～19世紀現代フランス語オンライン辞典』）を表し、また現代フランス語でも、「尊敬の念を表す言葉や文章、お祝いの言葉、祝福されている人に宛てた短いスピーチ」（Dictionnaire de français Larousse 『ラルース・フランス語辞典』）を意味するというように、いずれの時代にも compliment の語に flatterie 「お世辞・おべっか」の意味は含まれていない。フランス語のネイティブ・スピーカー（2名）によると、現代のフランス語で compliment が flatterie 「おべっか」の意味合いで使われることは、普通はなく、また、ロシア語の Спасибо за комплимент. と統語論的に同じ構造をもつ Merci pour le compliment. 「褒めてくれてありがとう」は一般的に皮肉の意味合いで、反語的に使われる。つまり、この場合も、compliment は「褒め言葉」を意味し、受信者は、この言葉の発信者が本心で褒めているのではないと皮肉っていることになる。また、フランス語では、褒められた場合には、謙遜して Vous me flattez! 「お世辞が上手ですね！」と返礼することがあるが（ただし、それほど定型文というわけではない）、それに対してロシア語の Это не комплимент, а правда! 「これはお世辞じゃなくて、本当のことです！」に相当する表現が使われることはなく、ただ Mais non! 「いいえ、まったくそんなことありませんよ」とだけ返答することが多いという。

以上から、ロシア語の場合はフランス語に比べ、комплимент と лесть の語彙的意味場が重なり合い、語用論的にも комплимент が лесть の意味で使われる場合が多いと考えられる。以下、комплимент の語源と17世紀から現代までの комплимент の語彙的意味の変遷を考察する。

7 КОМПЛИМЕНТ の語源と語彙的意味の変遷

7-1 КОМПЛИМЕНТ の語源

ロシア語の КОМПЛИМЕНТ は、17世紀、ピョートル1世の時代にフランスの貴族の用語 compliment 「挨拶」から借用された語であり(Черных П. Я. «Историко-этимологический словарь современного русского языка», 1993: チェルニーフ『現代ロシア語歴史・語源辞典』)、この語の当初の意味は「外交における口頭あるいは書面による敬意の表明」であった(Словарь русского языка XVIII века. АН СССР. Ин-т рус. яз., 1984–1991: ソ連科学アカデミー編『18世紀ロシア語辞典』)。

7-2 КОМПЛИМЕНТ の語彙的意味の変遷

7-2-1 17-18世紀における КОМПЛИМЕНТ の語彙的意味

17世紀に「外交における口頭あるいは書面による敬意の表明」の意味で用いられていたロシア語の КОМПЛИМЕНТ は、18世紀には主に次の3つの意味を表すようになった(Словарь русского языка XVIII века 『18世紀ロシア語辞典』):

- ① 口頭あるいは書面による敬意の表明(当初は外交の分野において);「何らかに関する敬意の感情の表現」
- ② 「出会いの際の挨拶、お辞儀」;「規範に基づく公式の挨拶」(例:「ピョートル条例」第24章:О комплиментах президентов 「中央行政機関の長への挨拶に関する条例」1720年)
- ③ 「へつらった褒め言葉(おべっか)」「お世辞」

以上から、КОМПЛИМЕНТ の17~18世紀における借用語としての意味は「外交関係における敬意の表明、何らかに関する敬意の表明」;「出会いの際の挨拶、お辞儀;規範に基づく公の挨拶」から → 「おべっか・お世辞」へと拡大していったと考えられる。

18世紀後半にはすでに現代ロシア語と同じ③「へつらった褒め言葉」の意味で使われていた。以下、当時の「へつらった褒め言葉」の意味の例文を考察してみよう。

(6) Со мною все очень поладили и поминутно делают мне комплименты. Какие же? Что я будто не похожу на чужестранного. «私とはだれもが(フランス人たちが)とても親しくなって絶え間なく私におべっかを使うのです。どんなおべっかかですって?まるで私が外国人じゃないみたいだということです」(Фонвизин Д. И. «Письма из второго заграничного путешествия (1777-1778). К родным» Денис・フォンヴィージン『第2回外国旅行からの手紙(1777-1778年)。親類宛て』)。

これは、18世紀を代表する劇作家で外交官でもあったフォンヴィージンが妻とフランスに旅行中に妹に当てた手紙(1777年12月31日付)の一節で、ここでの КОМПЛИМЕНТ は、上述の Словарь русского языка XVIII века (『18世紀ロシア語辞典』)では「へつらった褒め言葉(おべっか)」の意味の例として挙げられている。この手紙では、当時のロシア貴族の常としてフランス語もフランス文化の教養も身に着けていたフォンヴィージンが、得意の物まねによってフランス人の知人の銀行家をおもしろおかしく物まねすると、それがフランス人貴族たち、とりわけ貴婦人方に大いに受け、社交界の花形となったこと、また、そんな自分に取り入ろうとするフランス人貴族たちから異口同音に、まるで外国人ではなく(ロシア人のようではなく)フランス人のようだと言われ

ることが記されているが、そのような言葉や態度を、フォンヴィージンはロシア語の комплимент 「おべっか」という言葉で揶揄している。さらに、フランス人たちはこの言葉に続けてすぐに「おめでとうございます」を加えるが、それはそもそもフランス人のだれもが自分たちこそ世界で第一の民族だとみなす愚かな病に感染しているせいである（глупое заражение всех французов вообще）と断じている。ここで興味深いのは、取り入ろうと「おべっか」を連発するフランス人たちは、フォンヴィージンを過度に持ち上げ、過度に下からの目線で発しているかのようにでありながら、実際には自分たちの方が立場が上であるという上からの目線で見ている（意識的にせよ無意識にせよ）という点であり、語用論的にはおべっかを言いながら相手を見下していることが комплимент という語によって表現されている。つまり、通常対等あるいは下からの目線で発せられる комплимент は、上からの目線で発せられることもあり、その場合は相手に対する見下しや、場合によっては皮肉を含蓄しうると言えるだろう。

7-2-2 19世紀における комплимент の語彙的意味

ヴラジーミル・ダーリ（1801-1872）によって編纂された辞典（Толковый словарь живого великорусского языка 『現用大ロシア語詳解辞典』）では комплимент の意味として「口頭あるいは書面での丁寧な態度；称賛をとまなう挨拶、礼儀正しさ、おべっか」が記されているが、一方、17世紀に使われていた「外交関係における敬意の表明」の意味は示されていない。

7-2-3 20世紀における комплимент の語彙的意味

前述のように、ソ連科学アカデミー編纂の Словарь современного русского литературного языка АН СССР, 1956（『現代標準ロシア語辞典』）では комплимент は「だれかに厚情を言いたいあるいはおべっかを使いたいという意志によって引き起こされる褒め言葉（称賛の言葉）」と規定されているが、「外交関係における敬意の表明」も「挨拶、お辞儀」「礼儀正しさ」などの意味も明示されていない。

以上、17世紀から20世紀までの комплимент の語彙的意味の変遷をまとめると：

17～18世紀：①外交関係における敬意の表明、何らかに関する敬意の表明；②出会いの際の挨拶、お辞儀；規範に基づく公の挨拶；③おべっか・お世辞 → 19世紀：①口頭あるいは書面での丁寧な態度；称賛をとまなう挨拶、②礼儀正しさ、③おべっか → 20世紀：①褒め言葉（賛辞）、②お世辞、おべっか、という変遷が見られる。

現代ロシア語ではすでに失われている意味として、17～18世紀の①「外交関係における敬意の表明、何らかに関する敬意の表明」、②「出会いの際の挨拶、お辞儀；規範に基づく公の挨拶」；19世紀の①「称賛をとまなう挨拶」、②「礼儀正しさ」が挙げられる。

8 「故意性・意図性」「誠実性」「立場の高さ」の指数から見た похвала, лесть, комплимент の語彙的意味場の関係

前述のとおり、ロシア語における похвала, комплимент, лесть は互いに語彙論的意味場を形成し合うが、これらに立場の高さの指数を加え数値化し、さらにこれらの語彙論的意味場の関係を考察した。

その際、A「故意性・意図性」、B「誠実性」、C「立場の高さ」の3つの指数の大きさを、5（大）から1（小）までの5段階とし、それぞれの中心値を3、意味場が互いに重なり合う領域は2あるいは4とした。例えば、A「故意性・意図性」に関しては、похвалаは1～2、комплиментは2～4、лестьは4～5が想定され、一方、B「誠実性」に関してはこれらの数値は反転し、похвалаは5～4、комплиментは4～2、лестьは2～1が想定される。これらの関係を図示すれば以下のとおりとなる。

語彙の意味場	Похвала		Комплимент		Лесть						
A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

9 「故意性・意図性」「誠実性」「立場の高さ」の指数から見た各例文における **КОМПЛИМЕНТ** の語彙の意味場と語用論的意味

上述のように、一般的に **КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場は、A「故意性・意図性」、B「誠実性」、C「立場の高さ」の3つの指数のいずれにおいても2～4の値が想定されるが、具体的に前述の例文(1)～(6)では、**КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場と語用論的意味はどうなっているのだろうか。以下、個別に考察してみた。

9-1 例文(1)-1および(1)-2における **КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場と語用論的意味

例文(1)-1および(1)-2における **КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場と語用論的意味を個別に考察した。例文(1)-1における **КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場と語用論的意味：

Спасибо за комплимент. 「褒めてくれて（お世辞、おべっか）ありがとう」（ある女性による投稿「男性は女性に **КОМПЛИМЕНТ** を言ってから、その女性に「**КОМПЛИМЕНТ** ありがとう」と返されると、どうして「これは **КОМПЛИМЕНТ** じゃなくて、本当のことだよ！」などと言い返すのか」という不満の投稿）

КОМПЛИМЕНТ の語彙論的意味場：A2～4, B4～2, C4～2（похвала から лесть まで）

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論的意味：ここでは、この表現が、男性から女性への **КОМПЛИМЕНТ** に対する女性の返答として一般化されているために、語用論的意味は、褒め言葉あるいはお世辞あるいはおべっか（状況によっては皮肉）に対する感謝（状況によっては皮肉に対する皮肉）というように幅広い意味になりうる。また、語彙論的意味場も、A, B, Cとも похвала から лесть まで最大3段階（A2～4, B4～2, C4～2）にまたがりうる。

例文(1)-2における **КОМПЛИМЕНТ** の語彙論的意味場と語用論的意味：

Это не комплимент, а правда. 「これはお世辞（おべっか）じゃなくて、本当のことです」

комплимент の語彙の意味場：A4, B2, C2 (A, B, C ともほとんど лесть と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論的意味：「お世辞あるいはおべっかではない」こと（状況によっては本心ではないことあるいは嘘を言ったことに対する弁明）を意味する。

この場合、комплимент 単体の語彙の意味における意味場は похвала とは重ならず、意味場はほとんど лесть と同じ A4, B2, C2 を成すので、例文 (1)-1 より狭く、語用論的意味においても例文 (1)-1 より限定されていると推定される。

9-2 例文 (2) における комплимент の語彙の意味場と語用論的意味

例文 (2) における комплимент の語彙の意味場と語用論的意味：

В «47 ронинов» вы держитесь как Бастер Китон, несмотря на то что играете жуткого злодея.

– Спасибо за комплимент.

「映画「47Ronin」の中であなたは、極悪人の役でありながら、バスター・キートンのように演じていらっしゃいます」

「おほめに預かりありがとうございます」

комплимент の語彙の意味場：A2, B4, C3~2 (A, B はほとんど похвала と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論的意味：インタビュアーは、ロシアでもその演技が非常に高く評価されている浅野忠信をバスター・キートンに喩え称えている。この「褒め言葉」に対する浅野忠信の Спасибо за комплимент. も、「褒め言葉」に対する感謝と解釈できる。

この場合、語彙の意味における意味場は、C（上からの目線ではない）を除いてほとんど похвала と同じで、A2, B4, C3~2 と範囲が限定されており、語用論的意味においても、見返りを期待しない賛辞と同義を成す。

9-3 例文 (3) における комплимент の語彙の意味場と語用論的意味

例文 (3) における комплимент の語彙の意味場と語用論的意味：

– Не повезло американцам! Зато повезло нам! – хитро глянула на Романа.

– Спасибо за комплимент. Не верю, но приятно, – улыбнулся в ответ водитель.

「アメリカ人たちは損しましたね！その代わりに私たちは得したけれど！」と私はずる賢くロマンを見ながら言った。

「お世辞ありがとう。真に受けはしないけれど、うれしいよ」とリーダーのロマンは微笑んで答えた」

комплимент の語彙の意味場（ロマンの理解）：A4, B2, C2 (A, B, C ともほとんど лесть と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論的意味：ジュリヤの言葉をロマンは комплимент 「お世辞」と受け取り、お世辞でもうれしいと返している。この場合、ロマンが解釈した комплимент の語彙の意味場は、ほとんど лесть と同じで、A4, B2, C2だが、語用論的意味においては、лесть にもかかわらず好意的に受け止められている。

一方、ジュリア自身は、同じアメリカに憧れる仲間を見つけたという共感からいたずらっぽさに紛らせてこの言葉を発しているので、単なる「お世辞」というより「共感の喜び」から生じた「賛辞」を意味すると考えられる。この賛辞の語彙論的意味場は、例文(2)と同じく A2, B4, C3~2を成し、ロマンが解釈した комплимент の意味と対称を成す。すなわち、これは、Спасибо за комплимент. という同一の表現が、その発し手と受け手とで異なる語用論的意味をもつ例といえる。

ジュリアの言葉の語彙的意味場：A2, B4, C3~2 (A, B はほとんど похвала と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

9-4 例文(4)における комплимент の語彙的意味場と語用論的意味

例文(4)における комплимент の語彙的意味場と語用論的意味：

Лучшего комплимента для писателя трудно придумать. 「作家にとってこれほどの賛辞(褒め言葉)を思いつくのはむずかしい」

комплимент の語彙的意味場：A2, B4, C3~2 (A, B はほとんど похвала と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論的意味：小説に夢中で絶景さえも目に入らない妻の様子そのものが、小説の作者を称える純粋な行為であるという夫の視点。

この場合、語彙的意味における意味場は、C(上からの目線ではない)を除いてほとんど похвала と同じで、A2, B4, C3~2と範囲が限定されており、語用論的意味においても、見返りをまったく期待しない純粋な賛辞と同義を成す。

9-5 例文(5)における комплимент の語彙的意味場と語用論的意味

例文(5)における комплимент の語彙的意味場と語用論的意味：

Конечно, это лесть, комплимент. 「もちろん、これはおべっか、お世辞である」

комплимент の語彙的意味場：A4, B2, C2 (A, B, C ともほとんど лесть と同じ)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論の意味：ニューヨークからわざわざシャガールの個展のためにパリに来たという客の言葉は、それを目撃していた作者だけでなく、シャガール本人によっても、やめてくれと手で払う仕草によって「おべっか」として捉えられてはいるが、シャガール本人は笑顔でまんざらでもない様子を見せている。

この場合、語彙の意味における意味場は、ほとんど *лесть* と同じで、A4, B2, C2だが、語用論の意味においては *лесть* ではありながら、好意的に受け止められている。

9-6 例文(6)における *комплимент* の語彙の意味場と語用論の意味

例文(6)における *комплимент* の語彙の意味場と語用論の意味：

Со мною все очень поладили и поминутно делают мне комплименты. Какие же? Что я будто не похожу на чужестранного. 「私とはだれもが³ (フランス人たちが) とても親しくなって絶え間なく私におべっかを使うのです」

комплимент の語彙の意味場：A4, B2, C4 (A, B はほとんど *лесть* と同じ、C はほぼ *похвала*)

A: 故意性・意図性	小	1	→	2	→	3	→	4	→	5	大
B: 誠実性	大	5	←	4	←	3	←	2	←	1	小
C: 立場の高さ	高	5	←	4	←	3	←	2	←	1	低

語用論の意味：フランス人たちはだれもが、フォンヴィージンに取り入ろうとおべっかを言いながら、実際には自分たちの方が立場は上であるという上からの目線で見下しているとフォンヴィージン自身は捉えている。

この場合、語彙の意味における意味場の A4, B2 はほとんど *лесть* と同じで、その点では例文(5)と同じだが、C が上からの目線 C4 であることが、例文(5)と大きく異なる点で、語用論の意味においてはおべっかでありながら、実際には見下しているという行為を表している。

以上考察してきたように、*комплимент* は語彙の意味でも語用論の意味でも広い範囲をもちうる。では、褒められた場合、*Спасибо за комплимент.* の他にどのような返礼表現が一般的に用いられるのであろうか。例文(1)の女性の投稿に対するコメントでは、*комплимент* という語を使用しない返礼表現の *Приятно слышать!* 「(褒め言葉が) 聞けてうれしい」が提案されているが、*Словарь русского речевого этикета* (『ロシア語・言葉エチケット辞典』) には、この表現を含む次のような返礼表現が挙げられている：

Спасибо. 「ありがとうございます」(最も一般的に使われる感謝の表現)

Благодарю. 「感謝いたします」(広く用いられる丁寧な感謝の表現で、主に中高年の教養ある人たちによって使われる)

Приятно слышать. 「(褒め言葉が) 聞けてうれしい」(*комплимент* に対する丁寧な返答)

Польщён (польщена). 「お世辞でもうれしいです (褒め言葉 や *комплимент* に対する丁寧な返答)」

Вы мне льстите. 「お世辞がお上手ですね (*комплимент* に対する *полушутливый* 半分冗談の返答)」

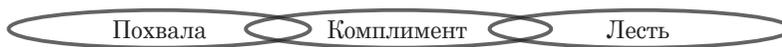
なお、*Польщён (польщена).* は、他動詞 *польстить* 「おべっかを使う」の受動形動詞過去(過去分詞)で、英語の *I'm flattered.* と同形表現だが、ロシア語では文語的で少し古めかしい感じを与える。また、*Вы мне льстите.* は、上述のフランス語の表現の *Vous me flattez!* と同形表現だが、フラ

ンス語では謙遜の意味合いが強いのに対し、ロシア語では半分冗談めかした言い方という違いがある。以上から、日本のロシア語学習者にとって使いやすい返礼表現は、Спасибо、や Благодарю、や Приятно слышать、などであろう。

10 おわりに

本稿では以下の点が明らかになった。

- ① 露和辞典には комплимент の語彙の意味として「お世辞」「おべっか」のみが挙げられているが、実際には、この語は「褒め言葉（称賛の言葉）」から「お世辞」さらに「おべっか」に至る広い語彙の意味をもち、さまざまな語用論の意味を表しうるので、日本のロシア語学習者には具体的なコンテクストにおける用法が理解しづらいと考えられる。その意味で、本稿で取り上げた例文とその解釈は、комплимент の語彙論的・語用論的理解の一助となることが期待される。
- ② 褒め言葉あるいはお世辞を言われた当人は、その言葉をどちらと理解するかによって返礼の表現 Спасибо за комплимент! も「お褒めの言葉ありがとう」の意味にも、「お世辞ありがとう」の意味にもなりうる。
- ③ 一方、Спасибо за комплимент! に対する返答表現の Это не комплимент, а правда! は、一義的に「お世辞じゃなくて、本当のことです」を表す。
- ④ ロシア語の комплимент は、17世紀、ピョートル1世の時代にフランスの貴族の用語 compliment 「挨拶」から借用された語で、17世紀から現代に至るまで次のような語彙の意味の変遷を辿った：17～18世紀：①外交関係における敬意の表明、何らかに関する敬意の表明；②出会いの際の挨拶、お辞儀；規範に基づく公の挨拶；③おべっか・お世辞 → 19世紀：①口頭あるいは書面での丁寧な態度；称賛をとまなう挨拶、②礼儀正しさ、③おべっか → 20世紀：①褒め言葉（賛辞）、②お世辞、おべっか。18世紀以降「お世辞・おべっか」の意味は残された。
- ⑤ Гутарева が指摘するように、комплимент は、похвала 「賛辞」、лесть 「おべっか」と同じ意味場に属し、これらの3語はトライアド（三連構造）を成し、伝達者の故意性・意図性は、похвала 「賛辞」 → лесть 「おべっか」に行くにしたがって増大し、誠実さ・正直さはその逆に、лесть 「おべっか」 → похвала 「賛辞」) に向かって増大する。комплимент は誠実さにおいて похвала と、故意性・意図性において лесть と意味場が重なり合うことになる。



- ⑥ これら3語の語彙の意味場を、A「故意性・意図性」、B「誠実性」、C「立場の高さ」という3つの指数の視点から、5（大）から1（小）までの5段階とすることによって、これらの3語の意味場の関係は次のように示されるようになった。

語彙の意味場	Похвала	Комплимент	Лесть
A: 故意性・意図性	小	1 → 2 → 3 → 4 → 5	大
B: 誠実性	大	5 ← 4 ← 3 ← 2 ← 1	小
C: 立場の高さ	高	5 ← 4 ← 3 ← 2 ← 1	低

- ⑦ 上記の語彙的意味場の指数によって *комплимент* を含む例文の語用論的意味の分析を行った。この分析により、具体的な例文における *комплимент* の語彙論的意味および語用論的意味が明らかになった。
- ⑧ 褒められた場合、*Спасибо за комплимент*. 以外の返礼表現として一般的に用いられるのは、*Спасибо*. 「ありがとうございます」、*Благодарю*. 「感謝いたします」、*Приятно слышать*. 「(褒め言葉が) 聞けてうれしい」、*Польщён (польщена)*. 「お世辞でもうれしいです」、*Вы мне льстите*. 「お世辞が上手ですね」などであるが、日本のロシア語学習者にとって使いやすい返礼表現は、*Спасибо*. や *Благодарю*. や *Приятно слышать*. であろう。

注

- 1 上智大学名誉教授
2 九州大学名誉教授

参 考 文 献

- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」『日本語学』15-5, 13-22, 明治書院
- 東郷正延・染谷茂・磯谷孝・石山正三編 (1988) 『研究社露和辞典』845, 研究社
- 松村明監修 (1995) 『大辞泉』1488, 小学館
- 和久利誓一・飯田規和・新田実編 (1992) 『岩波ロシア語辞典』699, 岩波書店
- Андрей Седых* Далекие, близкие. Воспоминания. New-York. Издание «Нового русского слова», 1979.
- Балакай А. Г.* Словарь русского речевого этикета. М. АСТпресс, 2001. С. 223, 647.
- Василий Корецкий* Асано Таданобу. 7 вопросов Таданобу Асано // «Русский репортер», No.46. (324) 21.11. 2013.
- Владимир Даль* Толковый словарь живого великорусского языка. Репринтное воспроизведение издания 1903-1909 гг. М. Издательская группа «Прогресс» «Универс», 1994. Т-2. С. 375.
- Гутарева Н. Ю.* Функции лести в ходе реализации коммуникации, «Филологические науки. Вопросы теории и практики», №2 (9) 2011. С. 66-68.
- Зарубин С. Ф., Рожецкий А.М.* Русско-японский словарь, М. «Русский язык», 1988. С. 283 (S. ザルービン, А. ロジェーツキン (1988) 『露和辞典』モスクワ, 「ロシア語」出版所, 283)
- Михаил Гиголашвили* Красный озноб Тингитаны: Записки о Марокко (2006) // «Нева», 2008.
- Салават Вахитов* Разорванное сердце Адель // «Бельские просторы», 2013.
- Словарь русского языка XVIII века. АН СССР. Ин-т рус. яз., 1984-1991. Выпуск 10. С. 126.
- Словарь современного русского литературного языка. АН СССР, 1956. Т-5. С. 1262.
- Фонвизин Д. И.* Письма из второго заграничного путешествия (1777-1778). К родным // Собрание сочинений в двух томах. М.-Л., 1959. Т-2. С. 433.
- Черных П. Я.* «Историко-этимологический словарь современного русского языка», 1993. Т-1. С. 420.
- Dictionnaire français modern en ligne: XVIII^e & XIX^e siècles:

https://www.lexilogos.com/francais_moderne.htm

Dictionnaire de français Larousse

<https://www.larousse.fr/dictionnaires/francais/compliment/17709>

付 記

本研究は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）「日露（イン）ポライトネスを切り口とした異文化理解教育のための教材および指導法開発」（研究代表者：松村瑞子、課題番号20K00700）の研究成果の一部である。